

函館市住民税非課税世帯物価高騰支援臨時特別給付金給付事業事務取扱要領

第1 趣旨

この要領は、函館市住民税非課税世帯物価高騰支援臨時特別給付金給付事業事務実施要綱（以下「実施要綱」という。）に定めるもののほか、当該給付金給付事業の事務の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

第2 受給権者

1 実施要綱第4条第1項に規定する世帯主が基準日以降に死亡した場合の取扱いは、次に掲げるとおりとする。

(1) 確認書の返送・申請を行うことなく死亡した場合

① 当該世帯主以外の世帯員がいる場合は、その世帯員のうちから新たに世帯主となった者が受給権者となる。

② 単身世帯の場合は、世帯自体がなくなってしまうため、給付することができない。

(2) 確認書または申請書の返送・申請を行った後に死亡した場合

当該世帯主に給付が行われ、他の相続財産とともに相続の対象となる。

(3) 実施要綱第7条第1項の規定によるお知らせを受け取った場合

① 振込先変更の申し出後に死亡した場合

当該世帯主に給付が行われ、他の相続財産とともに相続の対象となる。

② 口座変更や受給拒否の申し出期間中に当該申し出を行うことなく死亡した場合

ア 当該世帯主以外の世帯員がいる場合は、その世帯員のうちから新たに世帯主となった者が支給先（振込口座）の変更の届出を行い、給付を受けることとする。

イ 単身世帯の場合は、世帯自体がなくなってしまうため、給付することができない。

③ 口座変更や受給拒否の申し出期間後に届出を行うことなく死亡した場合

当該世帯主に給付が行われ、他の相続財産とともに相続の対象となる。

2 実施要綱第4条第2項に規定する特別な配慮を要する者の取扱いは、次に掲げるとおりとする。

(1) 配偶者やその他親族からの暴力等を理由に避難している者

① アまたはイに掲げる事例であって、かつ、②の申出者の満たすべき一定の要件を満たしており、その旨を申し出た場合、当該申出を行った者（以下「申出者」という。）については、基準日（実施要綱第2条第1項の基準日をいう。以

下同じ。)の時点で申出者が本市に住民票が所在しない場合にも、当該申出者の住民税非課税世帯給付金については、本市から支給する。

ア 配偶者からの暴力等を理由に避難し、配偶者と生計を別にしてしている者(婦人相談所一時保護所(一時保護委託契約施設を含む。以下同じ。)または婦人保護施設の入所者の暴力被害が、当該入所者の親族(配偶者を除く。以下同じ。)など、当該入所者が属する世帯の者が加害者であって、当該親族と生計を別にしてしている入所者を含む。)およびその同伴者であって、基準日において本市に住民票を移していない者

イ 親族からの暴力等を理由とした避難事例で、親族からの暴力等を理由に避難している者が自宅には帰れない事情を抱えているもの

② 申出者の満たすべき一定の要件は、次のアからエまでに掲げる要件のいずれかを満たすものとする。

ア 申出者の配偶者に対し、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(平成13年法律第31号)第10条第1項に基づく接近禁止命令または同法第10条の2に基づく退去命令が出されていること。

イ 婦人相談所による「配偶者からの暴力の被害者の保護に関する証明書」(親族からの暴力を理由に婦人相談所一時保護所または婦人保護施設に入所している者に婦人相談所により発行される「配偶者からの暴力の被害者の保護に関する証明書」と同様の内容が記載された証明書を含む。)が発行されていること。

なお、婦人相談所以外の配偶者暴力対応機関(配偶者暴力相談支援センター、福祉事務所および市町村における配偶者暴力相談支援担当部署)や行政機関、関係機関と連携してDV被害者支援を行っている民間支援団体(婦人保護事業委託団体、地域DV協議会参加団体、補助金等交付団体)が発行した確認書も、上記証明書と同様のものとして取扱う。

ウ 基準日の翌日以降に住民票が本市へ移され、住民基本台帳事務処理要領(昭和42年自治振第150号等自治省行政局長等通知)に基づく支援措置の対象となっていること。

エ アからウまでに掲げる場合のほか、申出者と住民票上の世帯との間に生活の一体性がないと認められる場合

※ 婦人保護施設等に申出者が児童とともに入所している場合で、申出者の配偶者に対して当該児童への接見禁止命令が発令されている場合など、当該取扱いの趣旨を踏まえ、明らかに申出者と住民票上の世帯との生計が同一ではないと判断することができる場合を含む。

(2) 措置入所等児童

基準日において、①から⑥までのいずれかに該当する児童(児童(基準日時点

で満18歳に満たない者をいう。以下同じ。) および児童以外の者(基準日時点で原則として満22歳に達する日の属する年度の末日までにある者(疾病等やむを得ない事情による休学等により、当該年度の末日を越えて在学している場合を含む。)) および⑥における母子生活支援施設の入所者を含む。以下同じ。) については、本市における申請・受給権者とする。

- ① 児童福祉法(昭和22年法律第164号)第27条第1項第3号の規定により同法第6条の3第8項に規定する小規模住居型児童養育事業を行う者または同法第6条の4に規定する里親に委託されている児童(保護者(児童福祉法第6条に規定する保護者をいう。②において同じ。)の疾病、疲労その他の身体上もしくは精神上または環境上の理由により家庭において児童を養育することが一時的に困難となったことに伴い、2月以内の期間を定めて行われる委託をされている児童を除く。)
- ② 児童福祉法第27条第1項第3号の規定により入所措置が採られて同法第42条に規定する障害児入所施設(以下「障害児入所施設」という。)に入所し、もしくは同法第27条第2項の規定により同法第7条第2項に規定する指定発達支援医療機関(以下「指定発達支援医療機関」という。)に入院し、または同法第27条第1項第3号もしくは第27条の2第1項の規定により入所措置が採られて同法第37条に規定する乳児院、同法第41条に規定する児童養護施設、同法第43条の2に規定する児童心理治療施設もしくは同法第44条に規定する児童自立支援施設(以下「乳児院等」という。)に入所している児童(当該児童心理治療施設または児童自立支援施設に通う者、2月以内の期間を定めて行われる障害児入所施設への入所または指定発達支援医療機関への入院をしている者および保護者の疾病、疲労その他の身体上もしくは精神上または環境上の理由により家庭において児童を養育することが一時的に困難となったことに伴い、2月以内の期間を定めて行われる乳児院等への入所をしている児童を除く。)
- ③ 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第18条第2項もしくは知的障害者福祉法(昭和35年法律第37号)第16条第1項第2号の規定により入所措置が採られて障害者支援施設(障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(平成17年法律第123号)第5条第11項に規定する障害者支援施設をいう。)またはのぞみの園(独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園法(平成14年法律第167号)第11条第1号の規定により独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園が設置する施設をいう。)に入所している児童(2月以内の期間を定めて行われる入所をしている者を除き、18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者のみで構成する世帯に属している者に限る。)
- ④ 生活保護法(昭和25年法律第144号)第30条第1項ただし書の規定に

より同法第38条第2項に規定する救護施設、同条第3項に規定する更生施設もしくは同法第30条第1項ただし書に規定する日常生活支援住居施設に入所し、または困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（令和4年法律第52号）第12条に規定する女性自立支援施設に入所している児童（2月以内の期間を定めて行われる入所をしている者および一時保護委託がされている者を除き、18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者のみで構成する世帯に属している者に限る。）

- ⑤ 児童福祉法第25条の7第1項第3号の規定により同法第6条の3第1項に規定する児童自立生活援助事業における住居に入居している児童等（2月以内の期間を定めて行われる入所をしている者を除き、児童以外の者にあつては、同法の規定および「児童自立生活援助事業の実施について」により、入居している者に限る。）
- ⑥ 児童福祉法第23条第1項の規定により同法第38条に規定する母子生活支援施設（以下「母子生活支援施設」という。）に入所している者（2月以内の期間を定めて行われる入所をしている者を除く。）

(3) 入所措置等が執られている障害者・高齢者

①または②のいずれかに該当する「措置入所等障害者」および「措置入所等高齢者」（以下「措置入所等障害者・高齢者」という。）であつて、基準日において、本市に住民基本台帳に記録されている者については、本市における申請・受給権者とする。ただし、本市で入所等の措置を講じ、措置入所等担当課室から給付金担当課室に対して、施設所在市町村に住民票を移していない措置入所等障害者・高齢者に関する情報提供が行われた場合、本市が当該措置入所等障害者・高齢者に支給する。

- ① 「措置入所等障害者」とは、身体障害者福祉法第18条第1項もしくは第2項または知的障害者福祉法第15条の4もしくは第16条第1項第2号の規定による措置が執られている者（措置が執られている者には、措置施設入所者や措置入所に準ずるものとして措置権者が適当と認める者（成年後見人、代理権付与の審判がされた保佐人および代理権付与の審判がされた補助人が選任されている者等を含む。）を含む。以下同じ。）（2か月以内の期間を定めて行われる入所等をしている者を除く。）
- ② 「措置入所等高齢者」とは、老人福祉法（昭和38年法律第133号）第10条の4第1項および第11条第1項の規定による入所等の措置等が執られている者（2か月以内の期間を定めて行われる入所等をしている者を除く。）

(4) ホームレス等

居住が安定していないいわゆるホームレスの者や事実上ネットカフェに寝泊まりしている者であつて、いずれの市区町村の住民基本台帳にも記録されていない

い者について、基準日の翌日以降、本市において住民基本台帳に記録されたときは、本市における申請・受給権者とする。

(5) 無戸籍者

現に住民基本台帳に記録されていない者であって、自己またはその未成年の子等が無戸籍であると本市に申し出た者について、無戸籍者として把握していることを市長が相当と認めるときは、本市における申請・受給権者とする。

附 則

この要領は、令和8年1月8日から施行する。